



Title	衛生害虫
Author(s)	齊藤, 洋
Citation	makoto. 1974, 6, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86255
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

衛生害虫

齊藤 洋

従来、衛生害虫とは、伝染病予防法のいう伝染病を媒介し、

伝播する昆虫のことを言ってきた。最近では、(1) 伝染病を媒介

伝播するもの。(2) 虫咬症を引

きおこすものや、刺咬の際、毒液によって人間に被害を与える

もの、(3) 更に、その生息自体

が人間に不快感を与えるものに

まで拡大され、これらの昆虫類

すべてが衛生害虫として忌み嫌

われている。

私は、行政の上でこれらの昆虫

駆除にたずさわるもので、昆虫

学的に全然ズブの素人で、この

仕事にかかわるようになって

数年という浅学薄識しか持ち合

せはないので、口幅ったいこと

を言えたものではないが、現場

でこの仕事を進めている経験で

申し上げるなら、例えば、人間

(市民)が嫌だと思えば、その

昆虫の生態など全く無視し、頭

から強力な殺虫剤だとザンプと

行させられて来ているのである。

一例を上げてみよう。蜂が人

間の家屋の中に侵入してくる。

それを見付けたお母さんが走り

去り取って返したその手には殺

虫剤のスプレーがかざされ、侵

入した蜂に思い切り浴せ、瀕死

の蜂がノックダウンし断末魔の

もがきを精一杯3対の足に痙攣

させているのに、「まだ動いて

いる」とばかり動かなくなるま

で吹きかけている図がよくあり

ます。

また、便池の中や便所のまわ

りを飛び交う黒いいうすぎたない

腰細の蜂を見かける。これも前

述と変らない光景が引きおこさ

れることは間違いない。

これらの蜂が、何故に家の中

に侵入して来たのか、便所のま

わりを飛び交うのか、その理由

より、人間がコワイ、恐ろしい、

汚ないと感じたら即座に、その

蜂が何であろうと害虫なのであ

る。

私も、この仕事にたずさわる

まではその域を一步も出ていな

かった。

昭和四十五年八月、この仕事

をおおせつかって途方にくれて

いたとき、「少しでも相手を知

らずして何の仕事であろう」と、

無理を押し通し買入れてもらっ

た図鑑や文献を少しづつ眺めて

いて、私は、自然とは、何とう

まく組み合わせさせた世界であろ

うと感嘆した。

蜂は、厳密に言えば、人間を

主人公としてみて、果して実害

のおこる種類があるだろうか。

あるとすればスズメ蜂くらいな

もので、家の中に入って来た前

述の蜂も、ゴキブリを狩りに来

たのかも知れない。クモを狩り

に来たのかも知れない。便所の

まわりを徘徊してうす汚ない蜂

もはえの幼虫を狩り、はえの幼

虫の体内に産卵をしているのか

も知れない。

衛生害虫を私たちが話題にする

の限り、これは、人間の主観で

昆虫の世界を見ている。

地球上で数千万年、いやもつ

と長い期間、一番発達した動物

である二〇〇万種といわれる昆

虫類の発達のバランスを、私の

ような浅学者が論じることこそ

おこがましい限りである。

言うならば、我々人間が環境

を考えた場合、これは人間の主

観として害があり、益があるの

である。だから、昆虫類すべて

が害虫であり、益虫なのである。

その人そのものが、害である

か益であるかと感じるかで決ま

るのである。

私は、人間の社会で行政上こ

の問題と取り組まねばならない

立場で、できることは、人間の

まつりごとであっても、それが

できる限り科学的で合理的な立

場で慎重に対処することが大切

であろう。

住民から、害虫駆除について

申し出がある。私は、この要求

に対し100%即日その任に当っ

ている。しかし、その内容は、私

たちの軽薄な知識でもいい、出

来る限りその生態を知り、現在

の知識を持ち寄り、調べ、人間

がガマンできる程度に駆除し、

或いは、生態を住民とともに理

解し、自然界の中で息きつく人

間として解決したいのである。

ていること、そのことも果して

最善であるかは分らない。

最近、いろいろな昆虫が異状

発生する。このことをみて、も

自然界のバランスが崩れたとき

におこるのではないだろうか。

私は、幼少の時期を田圃の中

で過した。

小川のせせらぎに仔細が泳ぎ、

蝶が舞い、近くの御陵の森に五

位鶯、白鶯が群棲し、朝夕、そ

の声に悩まされた。

今は、高速道路を走る車の音

がかすかに森を越えて来る。

まわりに美しい家並も増えた。

しかし、夏に屋外に出ると今は

ど蚊にくわれなかつたように記

憶が脳裏をかすめる。

私たち人間が享受しているこ

の現代社会が、最善であろうか、

最良と言えない。

昆虫の社会を垣間見て、私た

ちの環境がどうあるべきか模索

しながら、衛生害虫に対処して

いるのが現実の姿であり、本当

の意味の衛生害虫など論ずる資

格を全く持合せないものの考え

方である。

しかし、私は行政の中で、衛

生害虫の駆除を行っている矛盾

を感じながら、、、。

豊中市下水道部作業課
第3作業係長